



## 目次

◆事務局からのお知らせなど..... 1  
 ■ナベヅル・マナヅルの全国飛来調査にご協力をお願いします。..... 1

■eBird キャンペーンのご報告..... 2  
 ■会員数..... 3

## ◆事務局からのお知らせなど

### ■自然保護室より

### ■ナベヅル・マナヅルの全国飛来調査にご協力をお願いします。

ツル類が越冬のため飛来する季節になりました。今年度も「ナベヅル、マナヅルの全国飛来状況調査(環境省請負)」を行いますので、ご協力をお願いします。

ナベヅル・マナヅルは、越冬地が鹿児島県出水市に集中しているため、感染症蔓延時のリスク等が課題となっています。本調査は、越冬地の適切な分散を含めた保護施策を検討する際の基礎的な資料を得ることを目的としていますが、あわせて、感染症発生時のツル類の動きについても情報収集を行いたいと考えています。



ナベヅル(左)とマナヅル(右)

2022～2023年シーズン(令和4年度)は高病原性鳥インフルエンザが野鳥において例年にないペースで発生し、鹿児島県出水市ではツル類の大量死が発生しました。2022年11月～2023年1月の出水市における回収数は、ナベヅル1,185羽、マナヅル62羽(陰性及び検査不能個体数は除く)で、回収数のピークは11月中旬から12月初旬でした。

当会事務局には11月中旬頃から「ナベヅルの群れが北帰行しているようだ」という目撃情報が寄せられる

ようになり、韓国では同時期に、一時的にナベヅル個体数の急増がみられました。国内では、長崎県諫早干拓等でナベヅル飛来数の増加が報告されました。しかし、九州以外の国内越冬地で、ナベヅル飛来数が一時的に増加したという報告はありませんでした。

高病原性鳥インフルエンザの発生が懸念される中で、皆様からの情報が貴重なデータとなります。観察や記録、情報提供等にご協力いただけましたら幸いです。

### ◆ナベヅル・マナヅルの全国飛来状況調査◆

#### ●調査1● 全国飛来状況調査

【対象期間】2024年10月～2025年2月(※1)

【対象地域】鹿児島県出水市以外の全国

【調査項目】

- (1) 飛来の有無→「なし」だけでも可
- (2) 確認した場所(地名できれば詳細に)(※2)
- (3) ツルの種類
- (4) 個体数(幼鳥、成鳥の内訳)
- (5) 確認した期間(初認日、終認日)
- (6) ツルが利用していた環境(例:水田、畑、河川等)
- (7) ねぐらの場所 ※確認できた場合
- (8) その他の情報(採餌物など確認できたこと)

【締切】2025年2月14日

(※1) 環境省への報告書提出の都合で、この期間を情報収集の期間としておりますが、期間外の情報も受け付けております。

(※2) 保護の観点から観察した場所の詳細情報の掲載を避けたい場合はお知らせください。報告書に掲載しないなど、対応致します。

★昨シーズンの情報を、環境省HPで公開しています。  
環境省HP

<https://www.env.go.jp/nature//choju/docs/docs7/docs7.html>

[2月29日受付分までのもの。掲載は都道府県、種類、飛来数などで、飛来地の詳細情報(市町村名など)は公表していません]

●調査2● 越冬地形成に向けた取組に関する情報収集  
【調査項目】

- (1)お住まいの地域における取組み情報の有  
→「なし」だけでも可  
(2)取組み情報(内容)など  
→ 情報をお持ちの方はご提供ください。

【締切】2024年12月25日が締切ですが、期間を延長し2月14日まで受付中です。

◎専用の記録用紙(エクセル)があります。

ご協力いただける方はお手数ですが、下記までご連絡ください。飛来や取組み情報の無い地域につきましては、「なし」だけの回答でもご協力いただければ幸いです。

【送付先・お問合せ】

自然保護室 横田

Eメール：[yokota@wbsj.org](mailto:yokota@wbsj.org)

FAX: 03-5436-2635

電話：03-5436-2634 (平日 10-17 時)

(自然保護室/横田さとる)

■eBird キャンペーンのご報告

●キャンペーン「バードウォッチングウィーク! 季節の鳥をeBirdに投稿しよう」の結果

11月1~7日のバードウォッチングウィークにキャンペーン「バードウォッチングウィーク! 季節の鳥をeBirdに投稿しよう」を実施しました。期間中に見た鳥をeBirdに投稿いただき、全国から昨年を上回る416名の参加があり、1,673件のチェックリストが投稿されました。

都道府県ごとのチェックリストの投稿数は、東京都が367件で最も多く、次いで北海道、千葉県、神奈川県、京都府の順になりました(表1)。全国で確認された種は合計268種でした。都道府県別の観察種数では東京都が130種で最も多く、続いて北海道が123種、千葉県112種、沖縄県102種、神奈川県100種の順となりました(表2)。

記録が多かった種ベスト10は、上位から順にヒヨドリ、ハシブトガラス、スズメ、ハクセキレイ、ハシボソガラスで、4位までは昨年と同じ結果となりましたが、10位に今回の観察対象種のジョウビタキが入りました(表3)。同じく観察対象種のモズとマガモは400件近く投稿され、マガモ、コガモ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、オナガガモ、ホシハジロ、ハシビロガモなどこの季節に渡って来るカモ類も100件以上報告されました。  
※種数はeBirdで使用されている分類による

表1. 都道府県別チェックリスト投稿数ベスト10

順位	都道府県	チェックリスト数
1	東京都	367
2	北海道	151

3	千葉県	129
4	神奈川県	121
5	京都府	97
6	愛知県	79
7	埼玉県	57
8	大阪府	54
9	沖縄県	53
10	兵庫県	51

表2. 都道府県別観察種数ベスト10

順位	都道府県	種数
1	東京都	130
2	北海道	123
3	千葉県	112
4	沖縄県	102
5	神奈川県	100
6	埼玉県	86
7	愛知県	83
8	大阪府	82
9	石川県	78
10	栃木県	77

表3. 記録が多かった種ベスト10

順位	種名	チェックリスト数
1	ヒヨドリ	955
2	ハシブトガラス	676
3	スズメ	643
4	ハクセキレイ	619
5	ハシボソガラス	574
6	カルガモ	554
7	アオサギ	514
8	カワウ	478
9	カワラバト(ドバト)	473
10	シジュウカラ	456
10	ジョウビタキ	456

●入賞者について

期間中に投稿された方のうち、観察対象種の季節の鳥3種(ジョウビタキ、モズ、マガモ)全て見た方10人に「サントリー特別賞(賞品: サントリーホールディングス株式会社提供のステンレス製タンブラー・フクロウ)」を、7日間毎日チェックリストを投稿した方10人に「日本野鳥の会賞(賞品: 日本野鳥の会オリジナルグ

ップ・卓上カレンダーと今治タオルハンカチ・ルリピタキ)」をさしあげました。どちらも該当者多数のため、抽選の結果、各 10 名を当選とさせていただきました。



画像：サントリー特別賞のタンブラー。藪内正幸氏のフクロウのデザイン  
協力：藪内正幸美術館

国内での eBird の利用者は 8,000 人を超え、投稿されたチェックリストの数も 22 万件を超えています。引き続き、日々のバードウォッチングや、探鳥会で観察された鳥の情報を eBird にお寄せください。次回キャンペーンは5月のバードウィーク（2025 年 5 月 10～16 日）を予定しております。

（自然保護室／岡本 裕子）

## ■総務室より

### ■会員数

12 月 2 日時点の会員数は 33,225 人で、先月と比べ 38 人減少しました。

11 月の入会・退会者数（表1）をみますと、入会者数は退会者数より 28 人少なくなっています。

11 月 1 日付の入会者数は 147 人で、前年同月の入会者数 127 人と比べ 20 人増加しました。

また、11 月末日付の退会者数は 175 人で、前年同月の退会者数 186 人と比べ 11 人減少しました。

なお、会員の増減は入会者数と退会者数のほかに、会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活した人数によって決まります。

表1. 11 月の入会・退会者数

	入会者数	退会者数
個人特別会員	6 人	10 人
総合会員（おおぞら会員）	24 人	43 人
本部型会員（青い鳥会員）	25 人	29 人
支部型会員（赤い鳥会員）	65 人	62 人
家族会員	27 人	31 人
合計	147 人	175 人
年度累計	1,407 人	※

※会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員とし

て復活する方がいらっしゃるため、退会者数の年度累計は、実際の退会者数とずれた数字となります。  
※上記集計は速報値になります。

## ●都道府県および支部別会員数

野鳥誌贈呈者数を除いた数を掲載します。

表 2. 都道府県別の会員数（12 月 2 日時点）

都道府県	会員数	対前月差
北海道	1,563 人	2 人
青森県	206 人	0 人
岩手県	331 人	-1 人
宮城県	517 人	3 人
秋田県	232 人	-1 人
山形県	212 人	1 人
福島県	497 人	-1 人
茨城県	847 人	0 人
栃木県	817 人	2 人
群馬県	584 人	0 人
埼玉県	1,950 人	-2 人
千葉県	1,466 人	-4 人
東京都	4,654 人	-2 人
神奈川県	3,073 人	-4 人
新潟県	340 人	-1 人
富山県	180 人	0 人
石川県	267 人	0 人
福井県	227 人	2 人
山梨県	244 人	0 人
長野県	820 人	2 人
岐阜県	462 人	-1 人
静岡県	1,197 人	-6 人
愛知県	1,587 人	-1 人
三重県	449 人	7 人
滋賀県	319 人	-1 人
京都府	815 人	-1 人
大阪府	1,883 人	-9 人
兵庫県	1,216 人	-7 人
奈良県	468 人	0 人
和歌山県	199 人	-3 人
鳥取県	224 人	-1 人
島根県	194 人	0 人
岡山県	532 人	-2 人
広島県	561 人	-6 人
山口県	307 人	-1 人
徳島県	321 人	-2 人
香川県	214 人	0 人
愛媛県	335 人	1 人
高知県	96 人	-1 人
福岡県	1,151 人	1 人
佐賀県	214 人	-2 人
長崎県	207 人	3 人
熊本県	354 人	1 人
大分県	224 人	1 人
宮崎県	241 人	1 人

鹿児島県	307 人	1 人
沖縄県	79 人	1 人
海外	14 人	0 人
不明	28 人	-7 人
全国	33,225 人	-38 人

備考：不明は転居先が不明の会員を示します。

表 3. 支部別の会員数（12月2日時点）

支部	会員数	対前月差
才ホーツク支部	239 人	0 人
根室支部	73 人	1 人
釧路支部	129 人	-1 人
十勝支部	197 人	0 人
旭川支部	95 人	5 人
滝川支部	37 人	0 人
道北支部	25 人	0 人
札幌支部	294 人	1 人
小樽支部	48 人	0 人
苫小牧支部	167 人	-1 人
室蘭支部	113 人	1 人
道南檜山	74 人	0 人
青森県支部	111 人	0 人
弘前支部	112 人	1 人
秋田県支部	222 人	-2 人
山形県支部	207 人	1 人
宮古支部	69 人	-1 人
もりおか	148 人	-2 人
北上支部	88 人	0 人
宮城県支部	484 人	6 人
ふくしま	119 人	-1 人
郡山支部	141 人	0 人
白河支部	17 人	0 人
会津支部	52 人	0 人
奥会津連合	7 人	0 人
いわき支部	92 人	0 人
福島県相双支部	15 人	0 人
南相馬	17 人	0 人
茨城県	758 人	2 人
栃木県支部	820 人	4 人
群馬	524 人	3 人
吾妻	44 人	2 人
埼玉	1,447 人	-3 人
千葉県	897 人	-4 人
東京	2,655 人	-1 人
奥多摩支部	763 人	1 人
神奈川支部	1,963 人	2 人
新潟県	260 人	-2 人
佐渡支部	38 人	0 人
富山	162 人	0 人
石川	245 人	0 人
福井県	217 人	0 人
長野支部	382 人	2 人
軽井沢支部	162 人	-1 人
諏訪支部	235 人	-1 人

木曾支部	20 人	0 人
伊那谷支部	74 人	0 人
甲府支部	179 人	0 人
富士山麓支部	52 人	0 人
東富士	57 人	0 人
沼津支部	127 人	-2 人
南富士支部	216 人	0 人
南伊豆	34 人	0 人
静岡支部	301 人	-7 人
遠江	350 人	-3 人
愛知県支部	1,229 人	-3 人
岐阜	437 人	0 人
三重	393 人	7 人
奈良支部	395 人	-1 人
和歌山県支部	202 人	-4 人
滋賀	317 人	1 人
京都支部	767 人	0 人
大阪支部	1,741 人	-3 人
ひょうご	924 人	-8 人
鳥取県支部	238 人	-1 人
島根県支部	189 人	0 人
岡山県支部	512 人	-3 人
広島県支部	489 人	-5 人
山口県支部	283 人	-2 人
香川県支部	175 人	-1 人
徳島県支部	342 人	-2 人
高知支部	90 人	-1 人
愛媛	313 人	1 人
北九州支部	232 人	1 人
福岡支部	522 人	1 人
筑豊支部	211 人	0 人
筑後支部	129 人	-2 人
佐賀県支部	281 人	1 人
長崎県支部	188 人	1 人
熊本県支部	345 人	1 人
大分県支部	209 人	1 人
宮崎県支部	234 人	1 人
かごしま県支部	287 人	0 人
やんばる支部	41 人	0 人
西表支部	51 人	0 人
	28,140 人	-20 人

備考：支部別の会員数の合計は、都道府県別の会員数の合計と異なります。

これは、本部型（青い鳥）会員や支部に所属されていない個人特別会員が支部別の会員数に含まれないためです。

（総務室／三浦 岳志）

◆支部ネット担当より

いつも支部ネット通信をご愛読いただきありがとうございます。

支部ネット通信では、支部やブロックから全国の支部・ブロックへ発信したい情報をご投稿いただいて掲載することができます。投稿にあたって特に字数の制限などは設けていません。できるだけ弾力的に対応させていただきます。原稿は毎月5日頃が締め切りで、25日頃に発行となります。ご投稿は下記アドレスまでお送りください。

今シーズンも自宅近くの海岸にミユビシギ、ハマシギ、シロチドリなどがやってきています。休息していることの多いハマシギとシロチドリに気づく方は少ないようですが、ミユビシギは忙しく波打ち際で採餌しているので散歩中の多くの方が歩みを止めスマホで撮影しています。このような事をきっかけに身近な自然に目を向ける方が一人でも増えると良いですね。

今年、1年お世話になりました。来年もどうぞよろしく願いいたします。良いお年をお迎えください。

---

日本野鳥の会

## 支部ネット通信

2024年12月号・通巻275号

◆発行

公益財団法人日本野鳥の会 2024年12月25日

◆担当

総務室 総務管理グループ

五十嵐真/林山雅子/松井華奈/原元奈津子/萩原洋平

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2620

FAX : 03-5436-2635

E-mail : [sibu-net@wbsj.org](mailto:sibu-net@wbsj.org)

---